

★時

2010 年 5 月 1 日(土)~4 日(火)

★場所

山形県/飯豊連峰

★ルート

1 日

鹿沼周辺→飯豊梅花皮荘 P→飯豊山荘→温身平(テント泊)

2 日

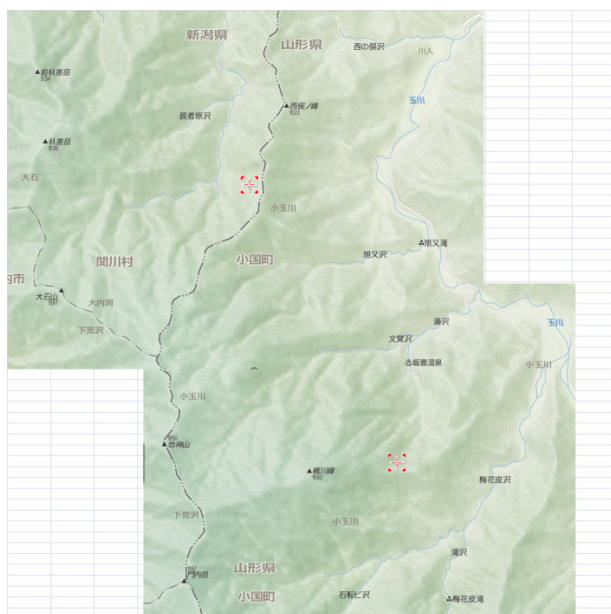
温身平→石転び沢→北股岳→門内小屋(泊)

3 日

門内小屋→頼母神小屋→えぶり差岳→頼母神小屋(泊)

4 日

賴母神小屋→丸森尾根→飯豐山莊→鹿沼周辺→帰宅



★参加者

やじまさん

リーダー。会長。「こんなに飲んじゃって、明日歩けるのかな…」。

てっしーさん

気象担当。「酔っ払って気象をとれましょん」。

阿部さん

裝備担当。大先輩 1。

吉高神さん

サブリーダー。大先輩 2。

小林さん

食糧担当。大先輩 3。

あおきさん

新人 1。

こじまさん

新人2。

やないさん

新人 3

筆者

新人 4

★はじめに

飯豊に3泊なんて「いまだきでない」なあ。
花も咲いてないじゃないか。

山ならなんでもウェルカムな筆者の頭にさえも、そんな疑問がよぎった出発前日の夜。
しかし結果としては、非常に勉強になる山行だった。

★1日目

鹿沼に6時に集合。安部さんが用意した駐車場に各自駐車して出発。

A班：安部さん、吉高神さん、小林さん、てっしーさん、こじまさん。

B班：やじまさん、あおきさん、やないさん、筆者。

車中では、Sさんの好きな女性のタイプや、トシちゃんとマッチの歌唱力を議論して過ごす。

14時に飯豊梅花皮荘Pに到着。小雨。

共同装備を分ける。筆者の分をみると、テント、ガス缶のほかに日本酒が1ℓ…。生野菜…(後にカレーになる)。

飯豊に持ち上げたアルコールは(筆者推定で)日本酒 5ℓ、ウイスキー1ℓ、梅酒 1ℓ、焼酎 0.5ℓ、ワイン 0.5ℓ、ビール 1.5ℓであった。

14時半出発。ふきのとうを拾いながら車道歩き(後に野菜炒めになる)。

直後に筆者がオーバーパンツを車中に忘れたことに気づく。行動中止かと思ったが、吹雪の時はやじまさんのを貸してくれるというので、行動続行する。筆者はビニール袋とテープで自作する腹積もりだったが、結局そのような事態にはならなかった。

路肩には雪が高く積もり、途中に雪崩の跡を乗り越える場面もあった。

16時半に温身平到着。テント設営。先輩方の動きが速くて焦る。

夕食：肉、ふきのとう、にら、ししとうの炒め物。コーンスープ。米。

やじまさんがヘッドランプを点けたまま寝ているので、新人女子が優しく消してあげる。

夜中、筆者は湿疹が出て苦しむ。ふきのとうの食べ過ぎか。



今年は雪が多い

★2日目

4時起床。天気よし。

筆者が手袋を探している間に、既にベテランは食事の準備に入っていて申し訳ない気持ちで一杯になる。

朝食：さつま揚げ海苔焼き。茶漬け(温泉卵、だし汁)

テントを畳む。ベテランは自分の荷物より先に共同装備から片づける。

6時過ぎ発。雪の残る沢をすすむ。

8時には石転び沢の出合に到着。先行者のトレースがあったので楽々登山。

途中、スキヤーとすれ違う。大勢が山に入っているようだ。

11時半ごろ稜線に出る。天気良いが風強し。

梅花皮小屋でアイゼンを付ける。

行動中、筆者はカメラの取り扱いに苦勞した。コンパスと一緒に落として、斜面を滑り落ちるのを阿部さんに止めてもらう。すみません。

13時半に門内岳。

14時くらいに門内小屋着。1階のドアを掘り出すが開かず(壊れていたらしい)。2階から出入りする。

やじまさんがいつもの高山病で伏せる。やないさんもお疲れ。

お茶タイム。目を離した隙にココアが1ℓもできていて驚く。

鬼が登場して(正確には鬼をも殺す液体)、夕食まで宴は続く。

てっしーさんに話を振ったら、もう寝ていた。

ポップコーンを作る。あおきさんがベテラン3人からコツを伝授されていた。

夕食：カレー(人参、玉ねぎ、セロリ、エリンギ、ソーセージ、にんにく)、韓国の辛いスープ。いちごゼリー。

ここまで汗をかいてない筆者だが、このカレーで目出帽を汗だくにしてしまう。

小屋内の温度は0度くらい。テントを張って、中で寝る者もあり。

風の音強し。



石転び沢の傾斜は、場所によっては40度近くに感じられた

★3 日目

4 時起床。天気よし。

朝食：ラーメン(キムチ、海苔)。マッシュポテト。

6 時前に出発。

軽快に歩き、8 時前には頼母神小屋着。荷物をデポしてえぶり差岳へ。抜けるような青空。10 時過ぎに山頂に着く。

頂上直下のえぶり差小屋で休憩。年末に小屋に来た時の話を聞く。小屋ノートにやないさんの知人の記帳があった。世の中は狭い。

頼母神小屋に帰着。

はやくも 13 時過ぎには鬼の気配がしてくる。余興代わりに、小屋横に雪のテーブルを作成して宴。

男 4 人でマニアックな車の話で盛りあがる。

16 時に気象。ほろ酔いのてっしーさんは漁業情報のところでギブアップ。日本全国が高気圧に覆われていた。そのあと小屋に入る。

夕食：マーボー春雨。とろろ昆布とかつおぶしのスープ。米。

やじまさんのプライベートトークで盛り上がる。「やじまくんの魅力って何?」「貯金はいくらあるの?」など厳しい質問がベテランから飛ぶ。

やじまさんがヘッドランプを点けたまま寝ているので、シュラフを敷くのに邪魔に思った筆者が、優しく叩き起す。

1 階には 4~5 名の登山客。我々は 2 階で寝る。暖かい。筆者は寝袋ジッパー全開で寝る。

夜半、風が強く小屋が揺れる。



青空と雪山

岳に雪は無かった



えぶり差

★4日目

4時起床。曇り。

筆者は寝坊して、食事の準備に遅れる。すみません。

朝食：お茶漬け(焼き鮭、梅干し、ねりわさび、とろろ昆布、ふりかけ、ささかま)
準備を終えた小林さんが寒風の中待っていた。すみません…。

6時前出発。地神山の手前まで登り返す。風強い。

7時過ぎ。丸森尾根をつぼ足で下る。出だしのクラストに気を使うだけで、後は軽快に下る。

尾根から見えるのは豪快な斜面である。スキーで下ると楽しそうだ。

標高を下げるにつれて、暑くなってくる。下界は20度近い。地面が出てきて下りにくい。背の低いこじまさんは苦勞していた。

この日、飯豊梅花皮荘周辺では熊祭りが催されている。

10時からの熊追い(大声)大会に出席したいやじまさんと筆者は走って下山する。

しかしタッチの差で間に合わず。やじまさんは玉川対岸の会場に向かって、「ホォーリャーアァ」(熊追いの掛け声)と無念さをアピールしていた。

梅花皮荘で入浴。

小国駅ちかくで食事して15時くらいに出発。

渋滞はそれほどでもなく、20時に鹿沼着。

★感想

登山は団体行動という一面を持つ。

昨今の、登山のスポーツ、レジャー化の中では廃れてきた側面である。

ベテラン勢の生活技術を間近で拝見して、そのことを強く思った。

別にシビアな登山の場合に限らなくても、

団体行動のテンポが速いと、時間の余裕が出てくるので山行が充実かつ楽しくなるである。

このような機会をくださった、リーダーのやじまさん、サブリーダーの吉高神さん、装備の阿部さん、食糧の小林さん、気象のてっしーさんに感謝したい。